

第81回 経営協議会 議事要録

日 時 令和4年6月30日（木） 13時30分～15時25分

委 員 日比野克彦 学長【議長】、迫 昭嘉 理事・副学長（教育担当）、
清水泰博 理事・副学長（研究担当）
大場 武 理事（総務・財務・施設担当）・事務局長
赤羽真紀子 委員、高橋陽子 委員、二宮雅也 委員、御立尚資 委員、
湯浅真奈美 委員、吉本光宏 委員

陪 席 上田良一 監事

国谷裕子 理事、麻生和子 理事
岡本美津子 副学長、佐野 靖 副学長（社会連携担当）

光井 涉 美術学部長、杉本和寛 音楽学部長
桐山孝司 大学院映像研究科長、熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長
大森晋輔 附属図書館長、黒川廣子 大学美術館長、
河野文昭 演奏芸術センター長

欠 席 中村政人 副学長（大学改革・渉外担当）
浜田健一郎 監事【陪席】、今村有策 副学長（国際連携担当）【陪席】
箭内道彦 学長特命（広報・ブランディング戦略担当）【陪席】

- 議事に先立ち、議長から学長就任後初めての経営協議会であることから委員及び陪席者全員の紹介があり、引き続き大場理事から事務系幹部職員についての紹介があった。

議題

1. 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 東京藝術大学学長選考・監察会議委員の選出について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 令和3年度財務諸表（案）について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
2. 令和5年度施設整備費補助金概算要求について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
3. 本学の取組について
議長からから、芸術文化における本学の近況について報告があった。
（本学の取り組み）
 - ・2022/3/18 「東京藝術大学発ベンチャー」称号記授与式
 - ・2022/3/21 GEIDAI GAMES 03 東京藝術大学大学院映像研究科ゲームコース展
 - ・2022/3/22 東京都との共同事業「デジタル上野の杜」プロジェクト
 - ・2022/3/25 令和3年度 卒業・修了式
 - ・2022/4/1 日比野克彦新学長によるメッセージ「屹度（きっと）」
 - ・2022/4/2 藝大コレクション展2022 春の名品探訪 天平の誘惑

- ・2022/4/5 令和4年度 入学式
- ・2022/4/11 YouTube「東京藝術大学公式チャンネル」を始動
- ・2022/5/16 『藤田嗣治 日々の記録』(PDF版)の公開について
- ・2022/5/17 「東京藝大アートフェス2022」開催
- ・2022/5/28 「新しいエコロジーとアート」展開催
- ・2022/6/3 藝大21 創造の杜2022 作曲家ジェルジュ・リゲティVo1.2
(受賞等)
- ・2022/6/18 大学院映像研究科山村教授 アヌシー国際アニメーション映画祭で
クリスタル賞受賞

※ご助言、ご提言等

◎新たな取組、今後の課題等について

議長から、本学のビジョン、活動状況及び今後の構想について報告があり、意見交換を行った。

- 藝大として長期的なビジョン、例えば2050年のビジョンについてどう考えるか。SDGsは2030年までに国連が定めた目標であるが、それを超えた藝大がどこに向かっているのかを示すものがあつた方がいいのではないか。
- 日比野学長の「芸術文化は心の中が苗床」という言葉を伺い、ジャンルを超えて芸術文化が、SDGsを含めた社会課題を解決に導く苗床になるのだろうと感じた。そういう概念を使って、藝大SDGsの位置付けを明確に打ち出した方が、学内外に理解しやすいのではないか。
- 「共創の場」による芸術の役割を数値化の取組や、行動変容を起こす元に芸術があるということを実証する取組について、大変期待している。
- 財務情報はもとより、非財務情報の開示も求められている。この位置付けに芸術を位置付けられないか。「共創の場」のように、取り組みを数値化していくことが必要になろう。
- ビジネスの場で、イノベーションが生み出せる人をどう増やすかが悩みである。ダイバーシティインクルージョンも具体的な話になると行き詰まり、それを生み出す人と知恵と場が必要である。そういった模索を一緒にやってくれるのが東京藝術大学であるということを外に知らせるのがいいのではないか。組織の名称も、それが分かるものにするといい。
- 藝大が企業との連携を柔軟に行うには寄附講座の仕組みを使うと良いのではないか。藝大側は中長期的に企業からの寄附を受けて、共に研究・教育・活動を進めることができ、企業側も即戦力となる人材の育成ができ、両者にメリットがある。
- 様々な社会的課題は、日本固有の問題というよりもグローバルな課題であることが多い。国際協力しながら進める必要がある。「共創の場」で行っている「アートとヘルス」という視点は、英国では文化政策として盛んに行われていて、ケア専門家がわかるように、アートの役割をエビデンスを示して丁寧に進めており、参考になると思われる。
- 藝大の役割、芸術の役割について、藝大が考えていることが学外に伝わっていないように感じる。積極的に学外に知らせると共に、藝大生に対しても大学のビジョンや、芸術の役割や捉え方が変わってきているということを伝えた方がいい。